


2008年冬学期 学術俯瞰講義  
グローバル化する社会に生きる

経済のグローバル化とひとびとの暮らし  
「変わる生き様：少子高齢化と家族の変化」

2008年12月18日(木)

白波瀬佐和子(文学部・社会学)



# 問いかけ

- 何がグローバル化なのか？
- 何のグローバル化なのか？
  
- グローバル化の何が問題なのか？
- グローバル化の中身か、帰結か？
  
- グローバル化と地域、国家の関係は？

# グローバル化を「ひと」からみる

## I. ひとの生き様

社会を構成するひと

## II. 労働市場

社会を維持・存続させる原動力

## III. 社会経済システム

人々の生活を規定する構造と制度

# グローバル化は「動き」

- 何の動きか？ 「ヒト」の動き

- ヒトのどの動き？

地域間移動 「都市化問題」

国際移動 「移民問題」

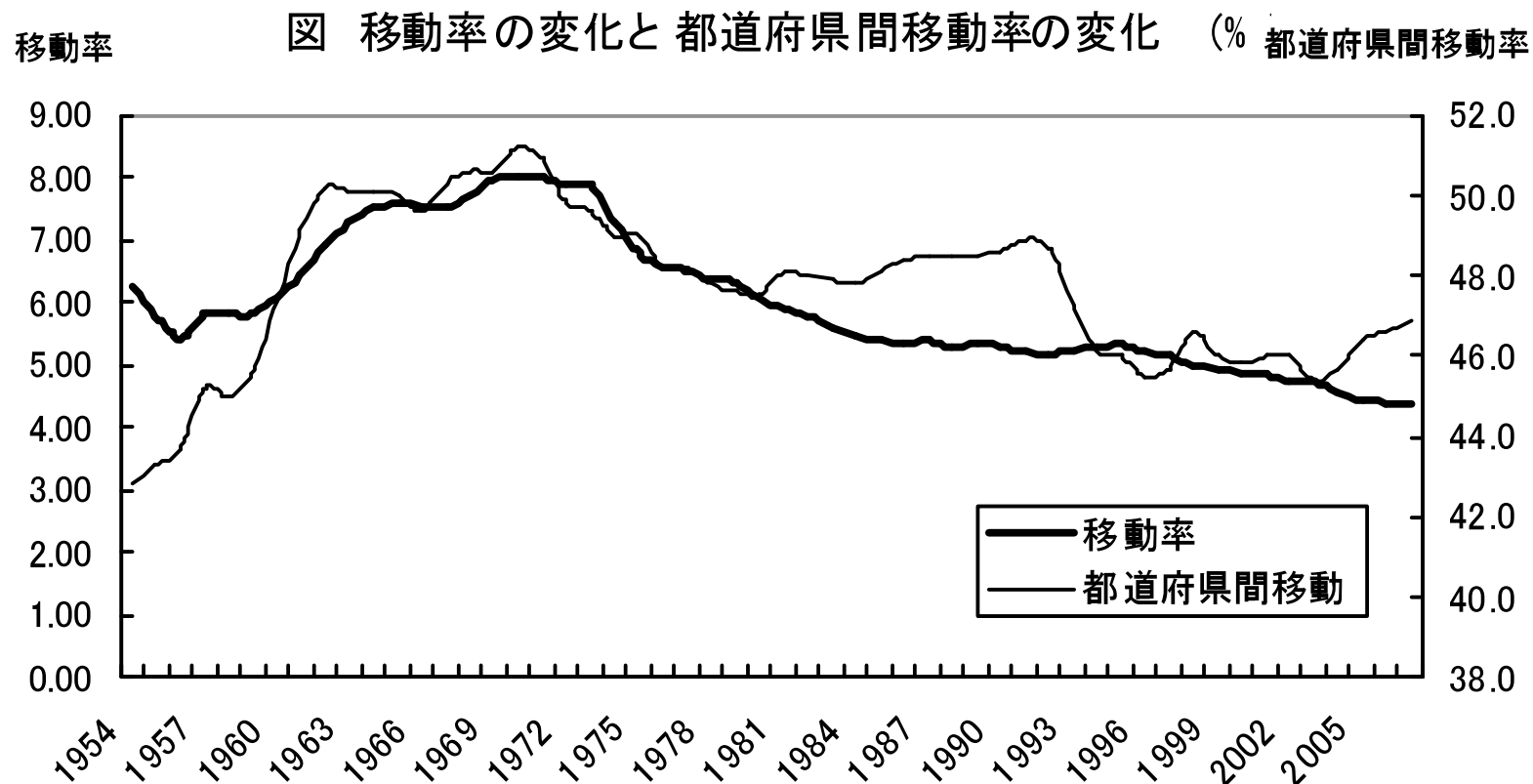
世代間移動 「不平等問題」

# 人口移動



- 1960年代、高度経済成長は、急激な産業構造の変化を伴って実現した。
- 第一次産業から第二次・第三次産業へ
- 産業構造の変化とともに、職業構造も変化し、人の流れが生まれる。

# 高度経済成長期における高い人口移動率



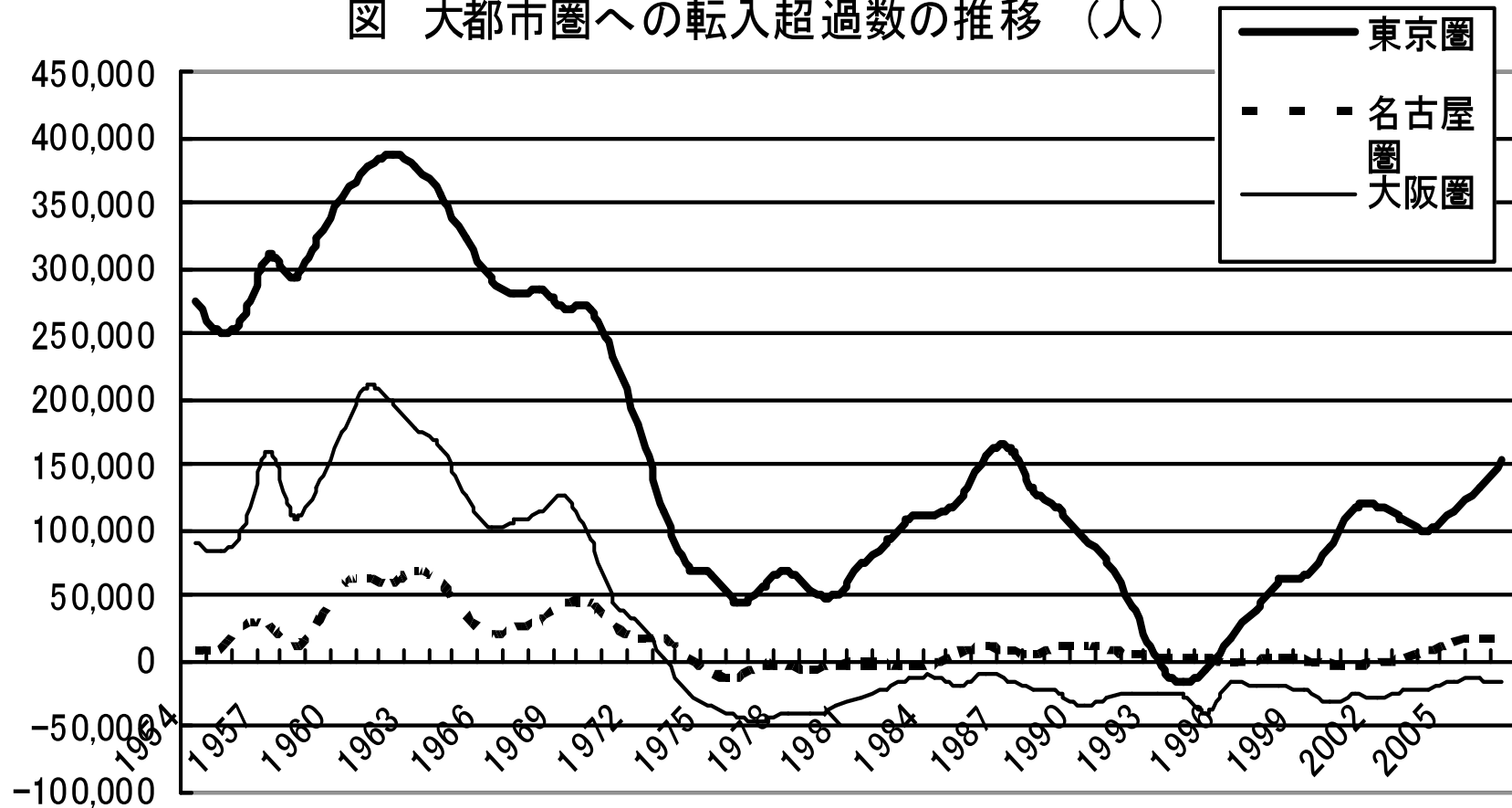
出典)「住民基本台帳人口移動報告」(総務省 2008年)

注)移動率は日本人人口に対する移動者数の比率である。

都道府県間移動率は、移動した者のなかで都道府県にまたがって移動した者の割合

# 高度経済成長期の高い人口移動は大都市集中を生んだ

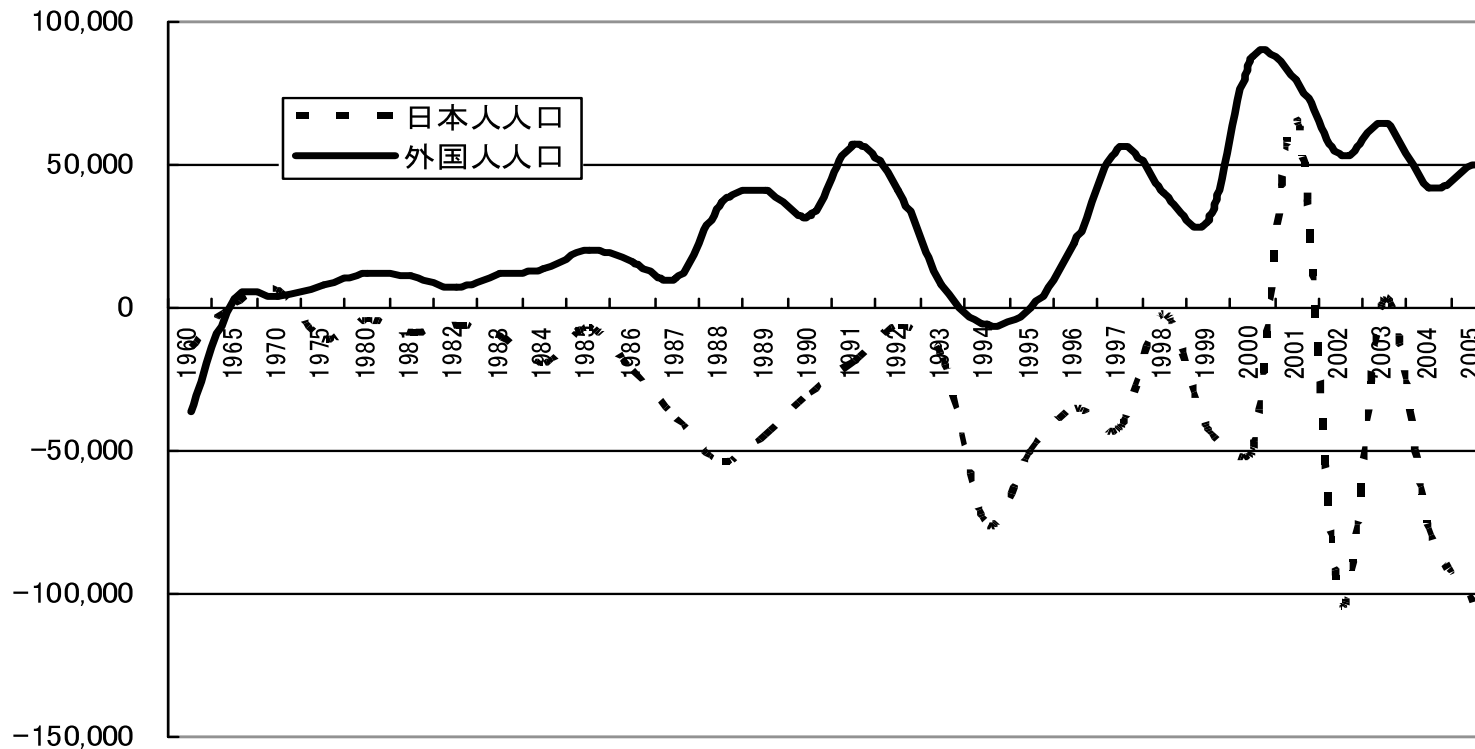
図 大都市圏への転入超過数の推移 (人)



出典：「住民基本台帳人口移動報告」（総務省 2007年）

# 外国人入国超過数は近年、上昇傾向

図 日本人、外国人別入国超過数



出典)「人口推計資料」(総務省統計局 2007)

注)各前年10月1日から当年9月30日における入国者数から出国者数を引いたもの。外国人は滞在日数91日以上のもく  
ただし、滞在日数90日以下の資格で入国後91日以上の資格に変更したものはここに含まれていない。

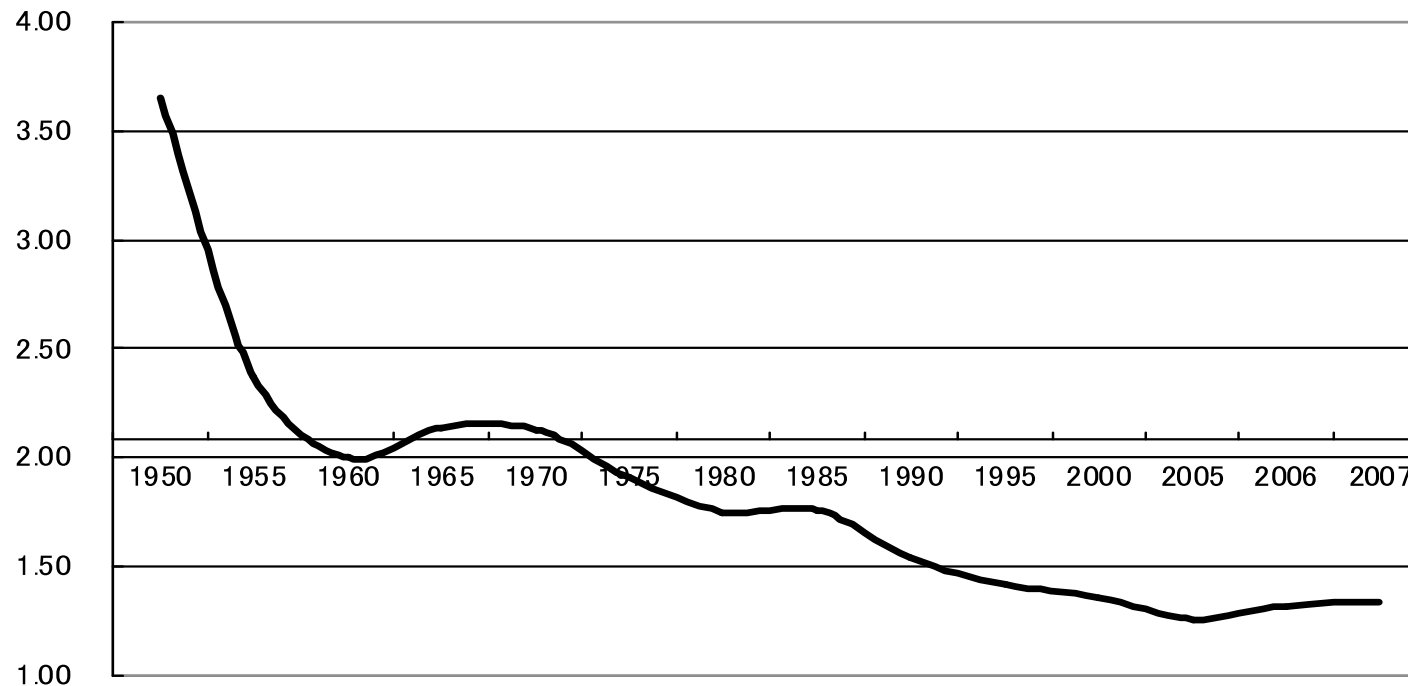
# 社会学的な移動の捉え方：社会階層移動

- 世代間移動：  
親（父）と子（息子）の社会的地位の  
継承/非継承
- 結婚移動：  
同類婚/内婚  
上昇婚/下降婚
- 世代内移動：  
職歴（無業化、非正規雇用化）

# 少子化の進行:

少子化とは合計特殊出生率が人口置換水準(2.08)に達しない状況が継続すること

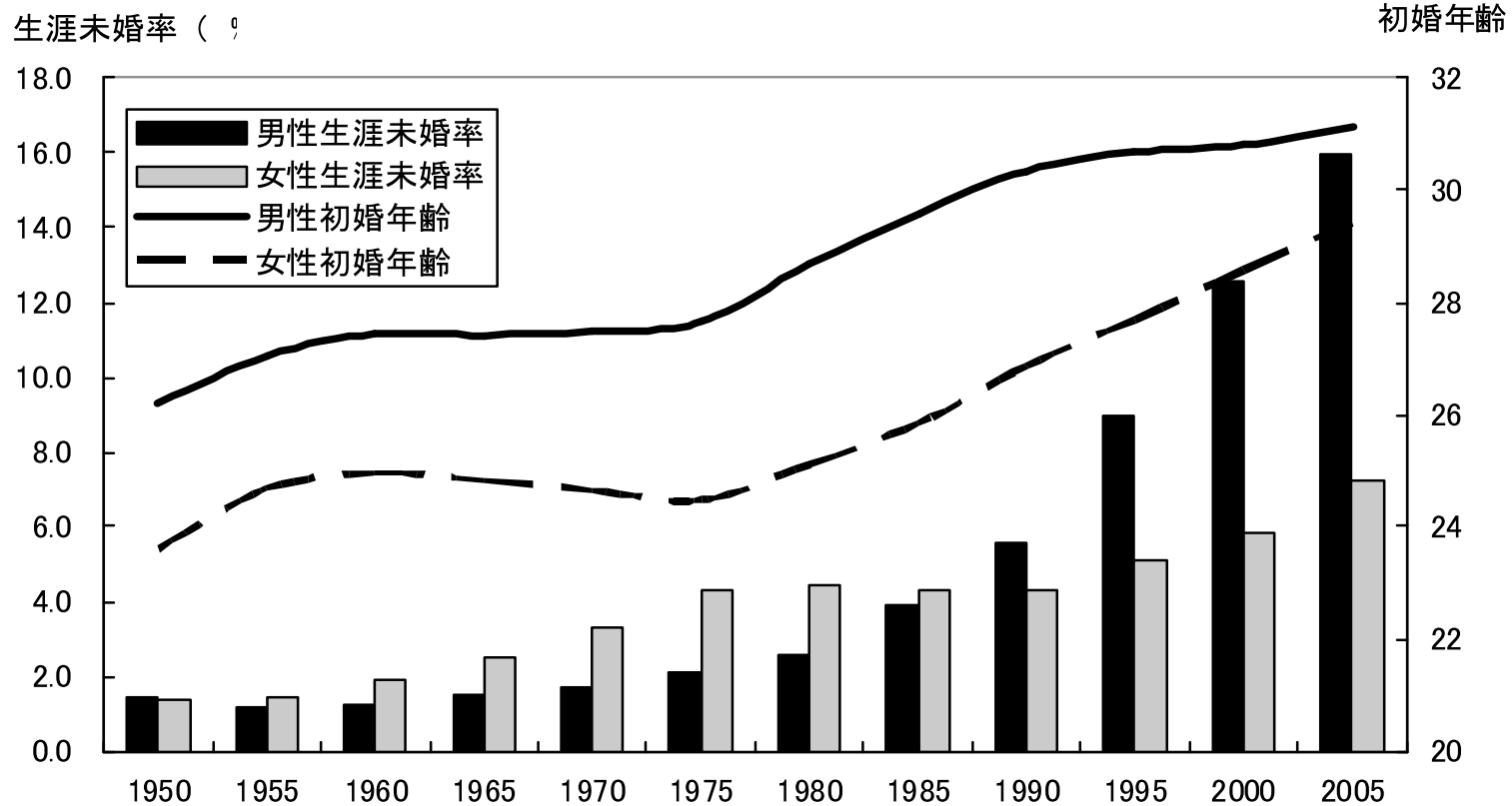
図 合計特殊出生率の推移



出典)「人口統計資料集 2008」(国立社会保障・人口問題研究所)

# 晩婚化、未婚化の進行

図 男女別 生涯未婚率と初婚年齢の変化



出典)「人口統計資料集 2008」(国立社会保障・人口問題研究所)

注)生涯未婚率とは、50歳時の未婚率をいう。

結婚とは、異なる/類似した社会的階層にある二人が一緒になること

- 結婚を通じた階層の結びつき：  
出身階層からの移動  
同類婚：似通った社会的階層出身者同士

同類婚が優勢な社会

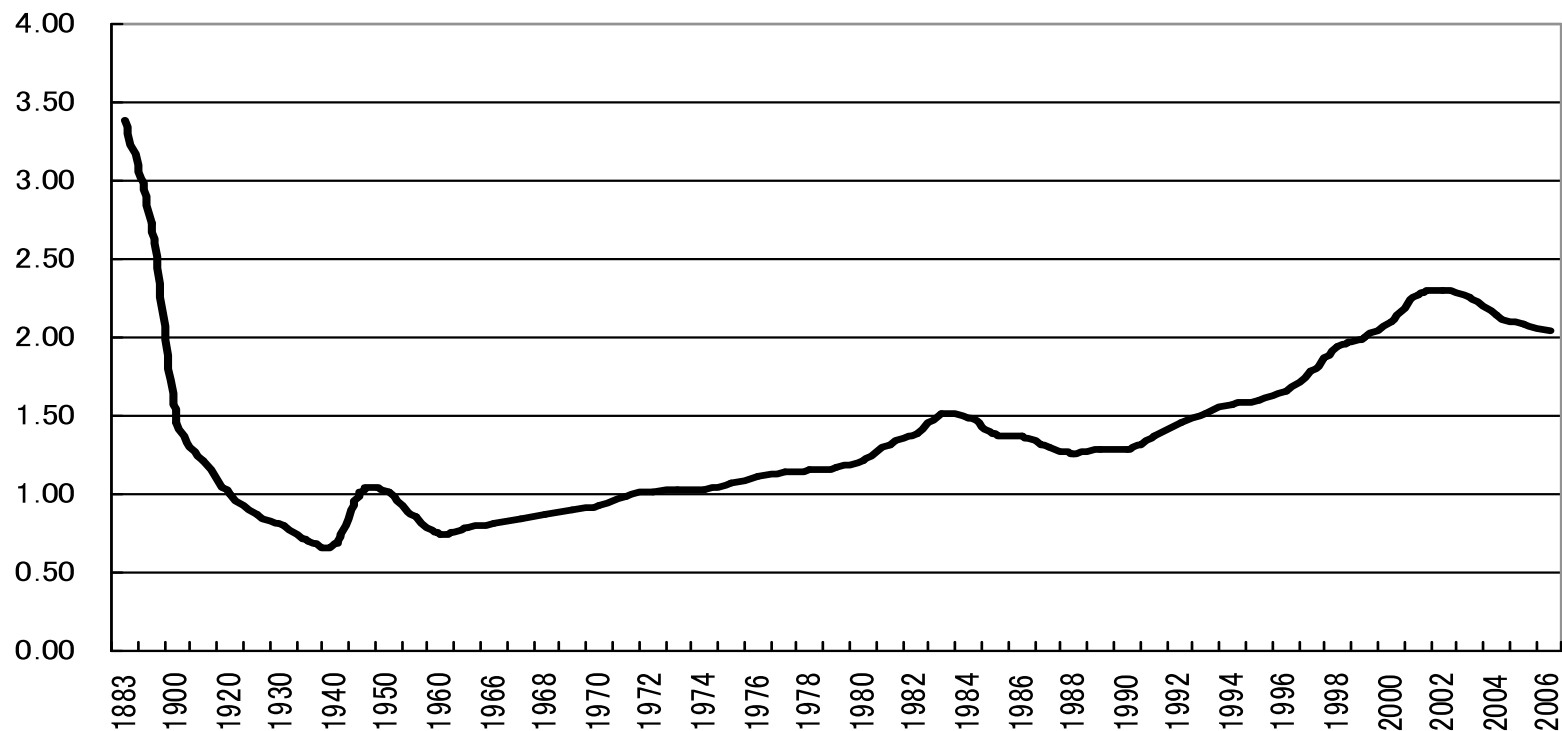
結婚を通じた  
階層の再生産

- 女性の高学歴を次世代への地位継承のために活用

# 離婚率の上昇：

一生のうち、パートナーシップが同じであるとは限らない。

図 普通離婚率の推移（1,000人あたり）

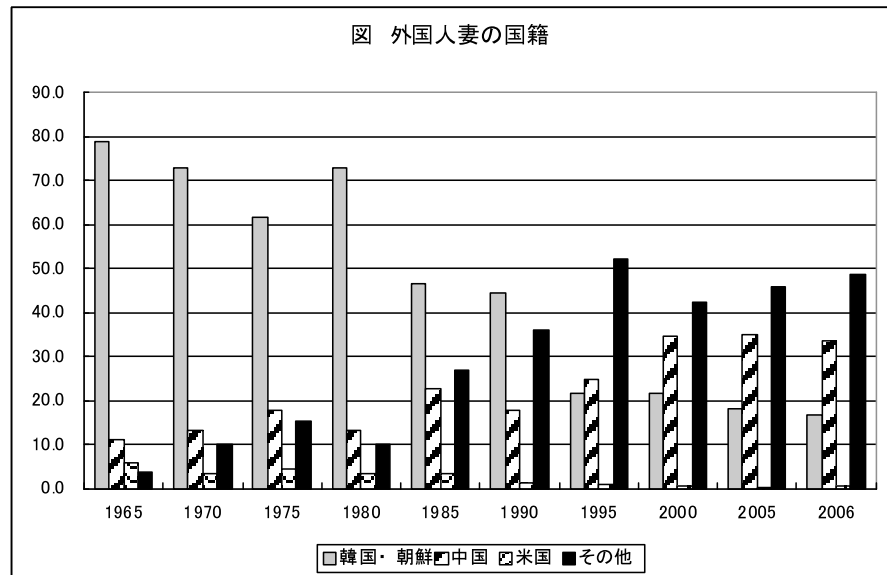
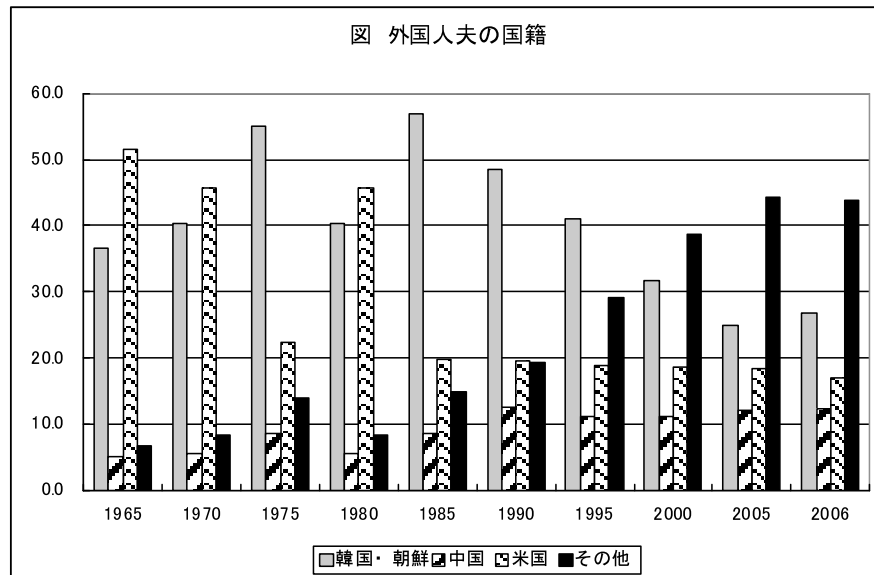


出典)「人口統計資料集 2008」(国立社会保障・人口問題研究所)

注)普通離婚率とは、人口1,000に対する離婚数

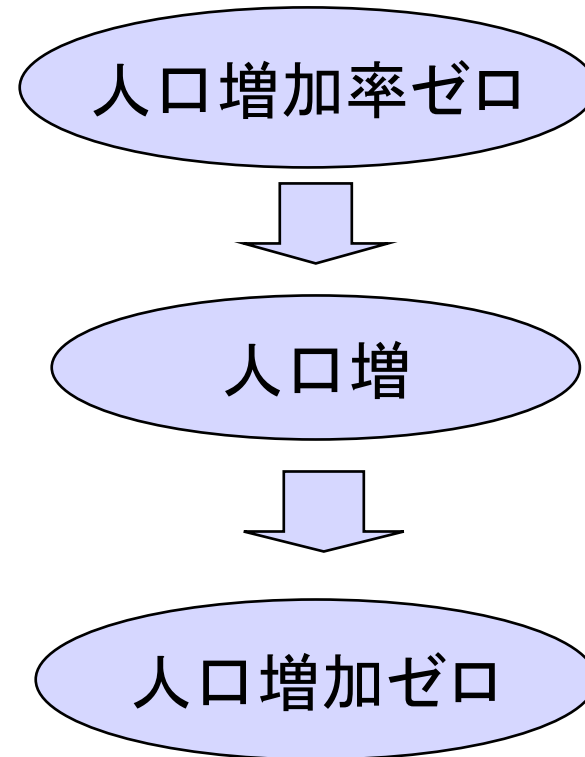
# 国籍が異なる者との婚姻

- 1965年夫婦ともに日本人の場合99.1%が、2006年には93.4%に低下
- 国籍が異なる夫婦が増え、夫が日本人で妻が外国人の婚姻が2006年5%



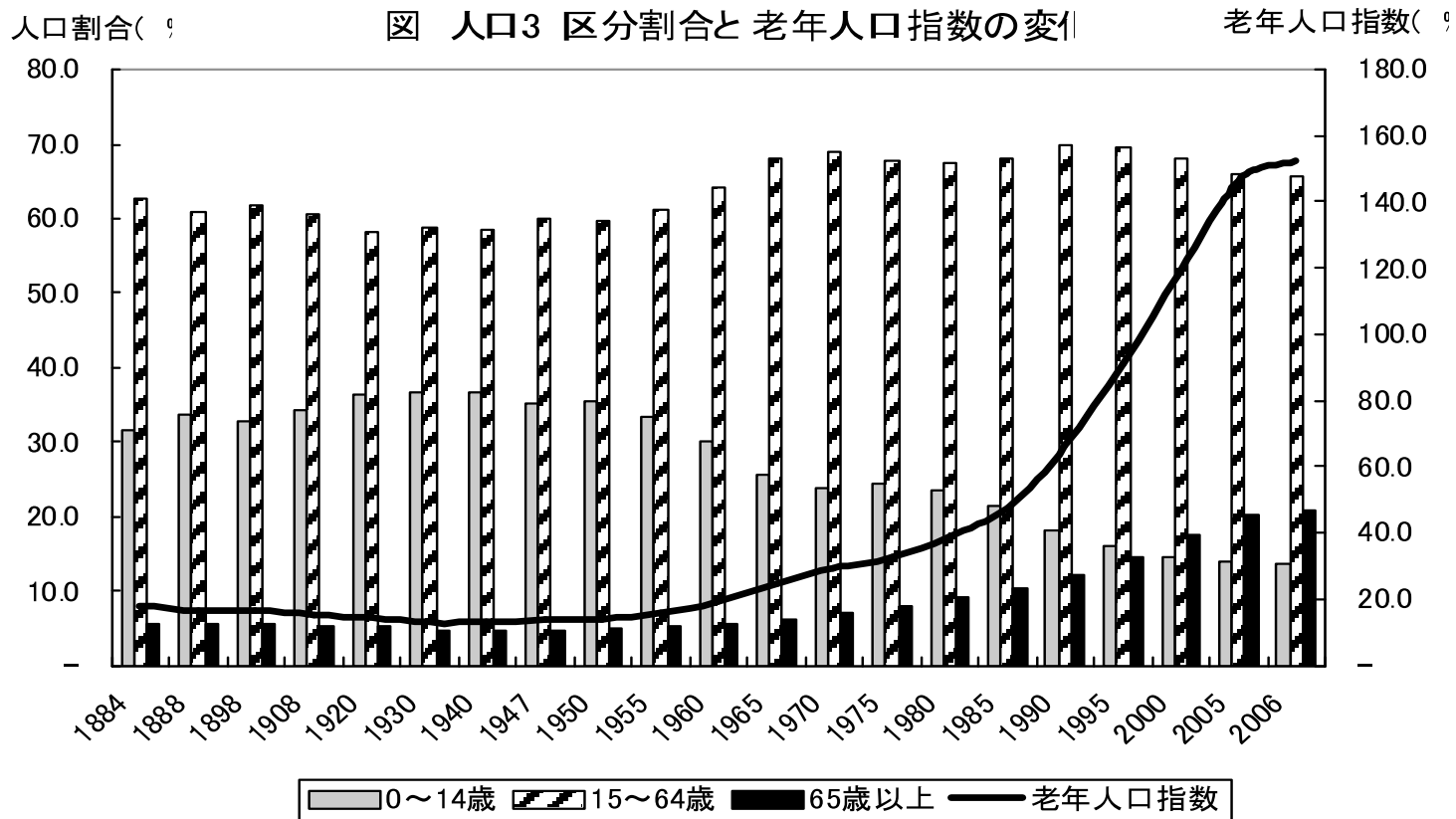
# 人口転換の結果としての人口高齢化

- 高出生率・高死亡率
- 死亡率の低下  
出生率とのギャップ大
- 出生率の低下  
死亡率とのギャップ少



人口構造の高齢化

# 少子化の結果としての人口高齢化： 世代間アンバランスと長寿化 生産年齢人口の相対的縮小 → 労働力不足

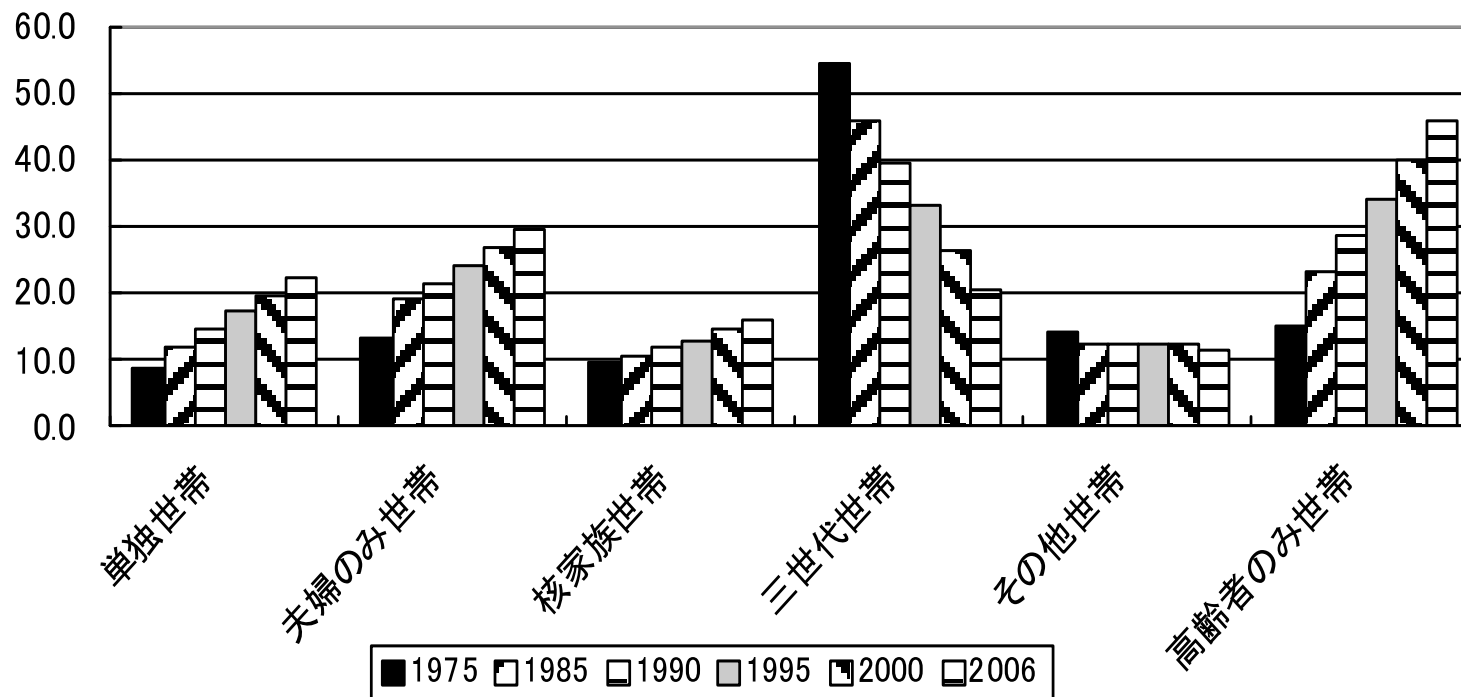


出典)「人口動態推計」(厚生労働省)

注)老年人口指数とは、15~64歳人口に対する65歳以上人口比率

# 生活の場の変化：世帯構造の変容

図 65歳以上高齢者がいる世帯構造分布（％）

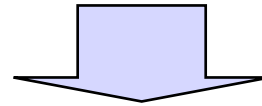


出所) 厚生労働省統計情報部『厚生行政基礎調査報告』および『国民生活基礎調査』による。

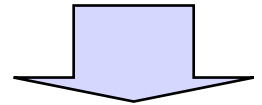
## 第2の人口転換：

人口置換水準に達しない低出生率が継続

人口千人あたりの出生率(粗出生率)が、  
死亡率(粗死亡率)を恒常的に下回る



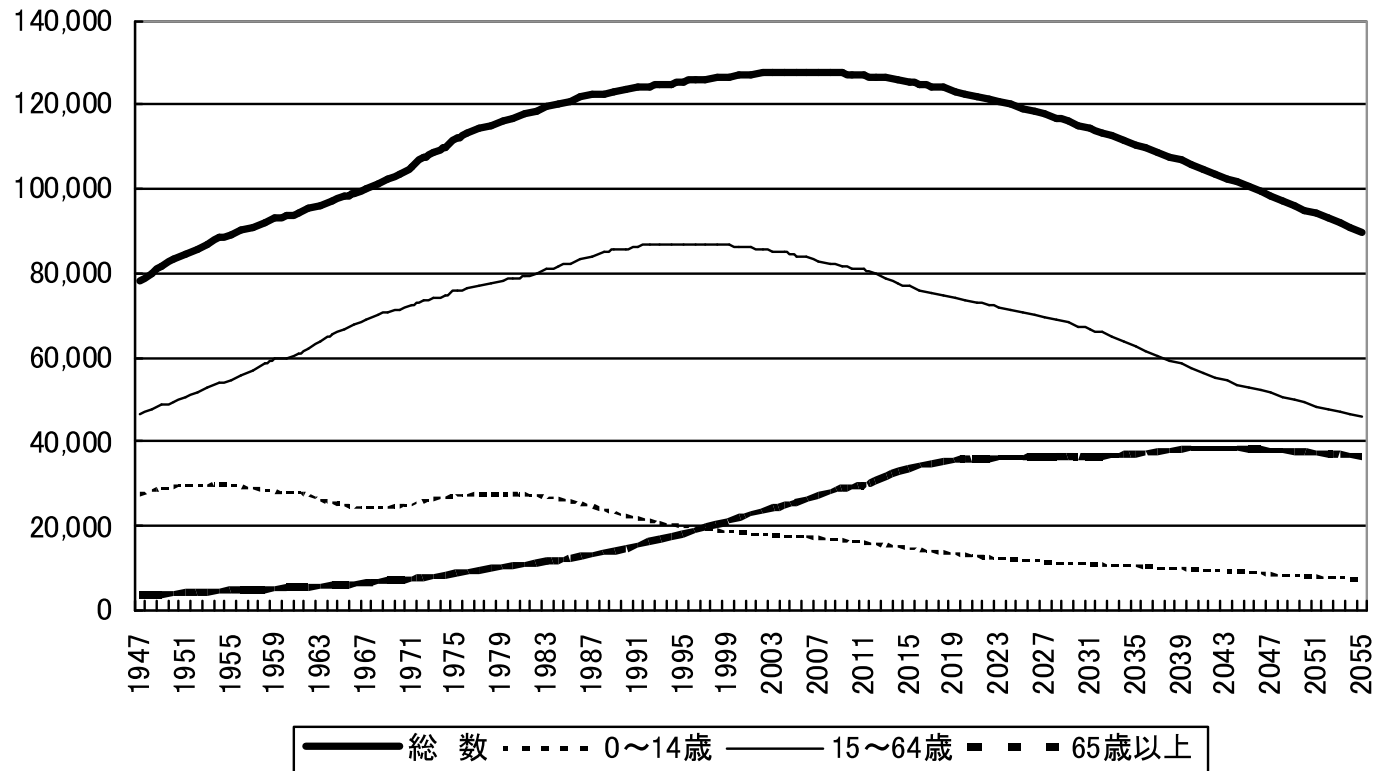
人口の自然増加率は恒常的にマイナス



人口減少が恒常的に継続して、高齢化がさらに進行

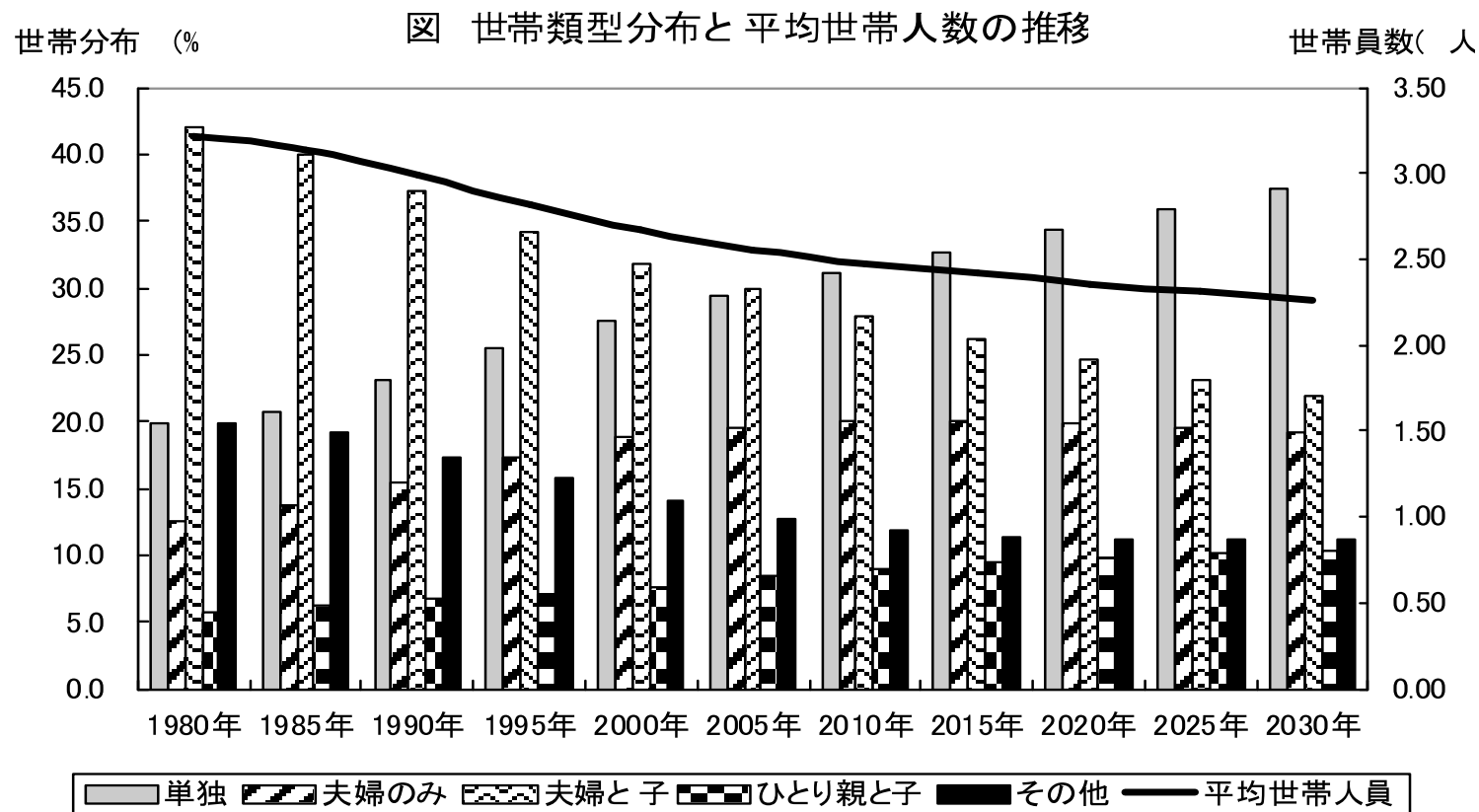
# 人口減少社会の到来

図 年齢3区分 人口の変化 (1,000)



注)2006年以降、出生中位・死亡中位推計 (「日本の将来人口推計」(国立社会保障・人口問題研究所 2006年12月))

# 生活の場の変化と世帯サイズの縮小



出典)「日本の世帯数の将来推計」(2008年3月推計)(国立社会保障・人口問題研究所)

# サイズの変化と質の変化

- 日本社会の人口規模が縮小
- 日本社会の人口構成が変化
- 誰が結婚し、誰が子どもを産み、誰が長生きするか、といったライフコースは階層性を伴う。
- 日本に参入する者の行き先、日本から出る者の行き先は一様ではない。

# ミクロな視点から少子高齢化を見てみると

- ★ 一生、結婚しないもの
- ★ 結婚という形態をとらずに子どもを産み育てるもの
- ★ 一生、子どもを持たないもの
- ★ 一生のうち、パートナーを複数もつもの
- ★ 老後、一人でくらすもの
- ★ 老後、夫婦だけで暮らすもの
- ★ 老後、親族でないものと共に生活するもの
- ★ 様々な国籍をもつもの

# 人口規模の縮小と分断化された社会

- 日本社会の人口規模が縮小する一方で、その社会を構成するのは、これまでとは違った生き方をするものが増える。
- 社会の構成員の中で多様性が高まる一方、その多様性に格差が介在する。
- グローバル化は「地球規模」というよりも、「分断化」された層を形成しながら進行し、そのグローバル化を構成するヒトも格差構造の中に位置する。

グローバルな世の中：  
段差があってもものが転がり、流れていく

グローバルな動きは決して平坦でスムーズではなく、階層性、不平等を伴って進行する。

- ・グローバル社会といわれる中で、富める国と貧しい国の格差が広がり、人の流れはこの格差に後押しされる。
- ・グローバル化は国の間の垣根を低くした側面もあるが、国の間の格差を前提とし、かつその格差を拡大させた側面も否めない。